

作左通信



第六十一号 平成二十五年六月十五日（土）発行

本多作左衛門はどんな人（その二）

◎作左衛門は秀吉が

許せなかった。

りさせようとなりました。

作左衛門などが承服せず

家康と同盟を結んでいた 秀吉は、自分の異父妹、十四歳の朝日姫を家康に娶

た。 松城を発って上阪しまし

倒されると、秀吉は、恩人 義兄弟になる他はな

岡崎城の留守を預かった 作左衛門は、主君の身の

が居るにも拘わらず、主家 家康は、やむなく承服し、を心配し、大阪から送られ

てきた秀吉の実母、大政所 の宿所の回りに薪を高く積

を再興しようとはせず、関 朝日姫が輿入れしてきまし

た。 そので秀吉は、再度、家 康が大阪城に来て家臣にな

人質を出させ、家来になる よう誓わせました。 康が大阪城に来て家臣にな

るよう促しましたが、家康 火を付け大政所を焼き殺す

を取り、主従関係をはつき は従おうとはしません。 手筈を整えました。

そこで更に七十四歳にな
る秀吉の実母の大政所を、
人質として岡崎城に送って
きました。
そこまで粘られては、家
康も断ることが出来ず、人
質の居る岡崎城は、最も信
頼の出来る本多作左衛門を
留守居役として数百騎の兵
を付けて守らせ、居城の浜
松城を発って上阪しまし
た。
この事は秀吉の心証を害
し、後年、江戸を離れて、
茨城県の取手に蟄居させら
れる原因の一つとなったの
でした。

（横山 茂）



作左衛門生誕の碑（官地町）→

作左衛門のお墓（取手市）←

